故事成語「杞憂」確認テスト（列子）｜定期テスト対策｜誰でも古典塾

組　　番　　氏名　　／100点

本文

【白文】

①杞国有レ人、憂二天地崩墜、身亡一レ所レ寄、廃二寝食一者。
又有下憂二彼之所一レ憂者上、因往暁レ之、曰、
「②天、積気耳。亡二処亡一レ気。若屈伸呼吸、終日在二天中一行止。③奈何憂二崩墜一乎。」
其人曰、「天果積気、日月星宿、不レ当レ墜邪。」
暁レ之者曰、「日月星宿、亦積気中之有二光耀一者。只使墜、亦不レ能レ有レ所二中傷一。」
其人曰、「奈二地壊一何。」
暁者曰、「地、積塊耳。充-塞二四虚一、亡処亡塊。若躇歩跐蹈、終日在地上行止。奈何憂其壊。」
其人舎然大喜。暁レ之者亦舎然大喜。

【書き下し文】

杞国に人有り、天地の崩墜（ほうつい）して、身の寄する所亡（な）きを憂へ、寝食を廃する者あり。
又た彼の憂ふる所を憂ふる者有り、因りて往きて之を暁（さと）して曰はく、
「天は、積気のみ。処として気亡きは亡し。若（なんぢ）の屈伸呼吸するがごとき、終日天中に在りて行止す。奈何（いかん）ぞ崩墜を憂へんや。」と。
其の人曰はく、「天、果たして積気ならば、日月星宿、当に墜つべからざらんや。」と。
之を暁す者曰はく、「日月星宿も、亦た積気の中の光耀（くわうえう）有る者なり。只（た）だ墜つるとも、亦た中傷する所有る能はず。」と。
其の人曰はく、「地の壊（やぶ）るるを奈何（いかん）せん。」と。
暁す者曰はく、「地は、積塊のみ。四虚に充塞し、処として塊（つちくれ）亡きは亡し。若の躇歩跐蹈（ち

よほしたう）するがごとき、終日地上に在りて行止す。奈何ぞ其の壊るるを憂へん。」と。
其の人舎然（しやくぜん）として大いに喜び、之を暁す者も亦た舎然として大いに喜べり。

【注】
・杞国…周代の小国。
・崩墜…崩れ落ちること。
・身の寄する所亡し…身を置く場所がなくなる。
・廃寝食…寝ることも食べることもやめてしまう。
・暁す…道理を説いて分からせる。さとす。
・積気…気の積み重なったもの。
・若…なんじ。あなた。
・屈伸呼吸…体を曲げ伸ばししたり息をしたりすること。
・行止…動いたり止まったりして暮らす。
・奈何…どうして。なんとして。
・日月星宿…太陽・月・星々。
・光耀…光り輝くもの。
・中傷…当たって傷つける。
・積塊…土くれの積み重なったもの。
・四虚…四方のあらゆる空間。
・充塞…すきまなく満ちふさがる。
・躇歩跐蹈…歩いたり踏みつけたりすること。
・舎然…わだかまりが解けてすっきりするさま。

設問

1. 傍線部①「杞国有人、憂天地崩墜、身亡所寄、廃寝食者」を書き下し文に改めよ。
2. 傍線部②「天、積気耳。亡処亡気」を書き下し文に改めよ。
3. 傍線部②「亡処亡気」の「亡」と同じ意味・用法のものを、本文中からもう一つ抜き出せ。
4. 傍線部③「奈何憂崩墜乎」を書き下し文に改めよ。
5. 「奈何憂崩墜乎」「奈地壊何」に共通して用いられている、疑問・反語を表す句法を何というか。「奈何（いかん）」の形をふまえて説明せよ。
6. 「只使墜、亦不能有所中傷」の「使」のはたらきとして最も適当なものを次から選べ。
    - ア 使役（…させる）
    - イ 仮定（たとえ…としても）
    - ウ 命令（…せよ）
    - エ 比較（…より）
7. 「杞国に人有り、天地の崩墜して、身の寄する所亡きを憂へ、寝食を廃する者あり」を現代語訳せよ。
8. 「因りて往きて之を暁して曰はく」を現代語訳せよ。

9. 杞の国の人を「暁す者」は、「天」とはどのようなものだと説明しているか。本文に即して答えよ。
10. 「暁す者」は、もし日月星宿が落ちてきたとしてもどうなると言っているか。本文に即して答えよ。
11. 「暁す者」は、「地」とはどのようなものだと説明しているか。本文に即して答えよ。
12. 「奈何ぞ崩墜を憂へんや」を現代語訳せよ。
13. 「其の人舍然として大いに喜び」を現代語訳せよ。
14. 次の語の本文中での意味を答えよ。
    - (1) 崩墜
    - (2) 廃寝食
    - (3) 暁（之を暁す、の「暁」）
    - (4) 若（屈伸呼吸、の前の「若」）
    - (5) 舍然
15. 杞の国の人は、何を心配して寝食もやめてしまったのか。本文に即して説明せよ。
16. 杞の国の人が次に心配したことは何か。本文の語句を用いて答えよ。
17. 本文の結末で、杞の国の人と暁す者は最終的にどうなったか。書きなさい。
18. 故事成語「杞憂」の意味を答えよ。
19. 「杞憂」の出典となった書物の名を答えよ。また、それは何という思想（学派）に分類される書物か答えよ。
20. この話から導かれる教訓として最も適当なものを次から選べ。
    - ア 起こるはずのない事をあれこれ心配するのは無益である。
    - イ 天変地異には日頃から備えておくべきである。
    - ウ 人の心配事は他人にはわからないものである。
    - エ 学問を究めれば自然の理がすべてわかる。
21. 「杞憂」を使った短文を一つ作りなさい。（成語の意味が正しく伝わるように用いること）